

静岡大学技術部全学組織化の現状

著者	河合 秀司
雑誌名	技術報告
巻	17
ページ	51-52
発行年	2012-03-11
出版者	静岡大学技術部
URL	http://doi.org/10.14945/00006566

静岡大学技術部組織化の現状

河合 秀司
工学部 技術部

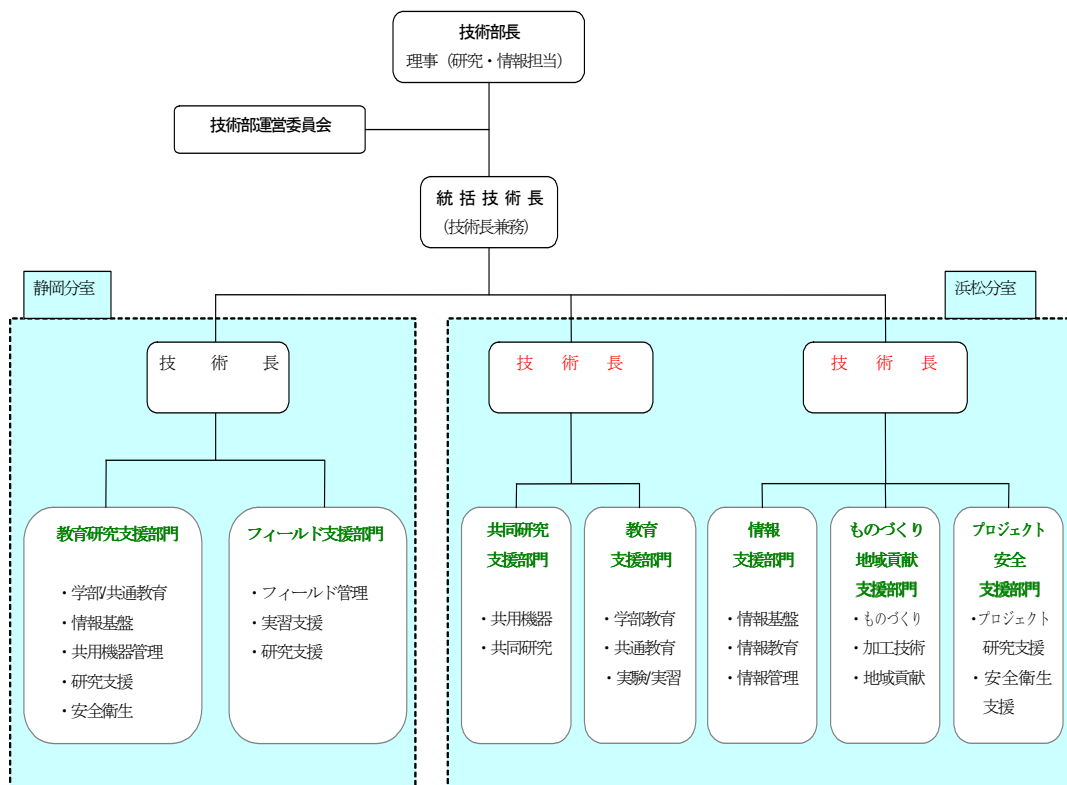
はじめに

本学の技術職員の組織化は「静岡大学教室系技術職員組織要項」により平成 6 年 4 月 1 日から始まった。その後、平成 16 年度に教室系技術職員及び技術部組織のあり方等について、技術職員問題検討 WG(技術部長会議)で検討され、平成 23 年の技術部長会議で全学組織化が検討され、現在に至っている。

組織について

現在、全学組織化は、24 年 4 月 1 日スタートの予定である全学組織図は、技術部長(理事)、統括技術長、技術長(静岡分室 1 名、浜松分室 2 名)、部門長(静岡分室 2 名、浜松分室 5 名)となっている。しかし、統括技術長が技術長を兼務する形になっている。

「静岡大学技術部」組織図(案)



なお、浜松分室の技術長が管理・監督する部門、部門長および技術職員の配属については、今後決定していく。

職階について

組織化された技術部における役職については、職務の級として、統括技術長は、管理職として5～6級、技術長は、管理職として4～5級が位置づけられる。(事務の場合には、管理職として課長、事務長、部長、局長)管理・監督の地位にある職員(一定の職員に対する労務管理・業務命令者となる)また、専門員の定数も、現行7から10に増加される。

今後の検討課題

組織化された技術部の運営は、技術部運営委員会で決定されると思うが、詳細については技術職員で行いたい。

そこで、検討課題としては下記の項目が挙げられる。(私見)

・ 業務遂行について

大学内における必要業務を担うとともに、各部局や研究室などの各種支援要請(依頼)に応える形となる

- ① 支援要請の業務と範囲
- ② 支援要請の内容
- ③ 支援形態のあり方

・ 評価について

現在、工学部の技術職員については、技術長、副技術長、支援室長で行っているが、他部局では行っていないので、その研修を技術長が行う。(希望)

- ・ 部門の技術職員は、部門長、技術長
- ・ 部門長は、技術長、統括技術長
- ・ 技術長は、技術部長

評価に伴う、昇格・昇給など(勤勉手当も含む)についても技術職員が行う。

他にも課題はあると思いますが、これからの技術職員からの意見などを取り入れて解決しなければならない。

最後に

組織化は、組織化ありきではなく、課題解決の手段と考える。

組織化は、抱える課題と解決指標を明確にして、継続的に進化させ、それぞれの実態に見合った組織であることが望ましい。

故に静岡大学技術部の組織化は終わりではなく、これからも進展していかなければならない。